

テーマ展

近江ゆかりの工匠
— 刀工・鐺師・鉄砲鍛冶 —



3/11(金)
4/12(火)

橋紋金象嵌火繩銃
銘 国友藤兵衛充俣

当館蔵

近江の国友村（現在の長浜市国友町）に拠点を置いた鉄砲鍛冶で、幕末に活躍した国友藤兵衛充俣が制作した火繩銃です。銃身には、彦根藩井伊家の家紋である橋紋が金象嵌で表されています。

本作は、銃身の家紋を除くと、加飾がほとんどありません。銃床に銃身を固定する胴金などの金具類も細身で、全体にスマートな造形となっています。国友鍛冶の鉄砲は、実用性に重きを置いたシンプルなデザインのものも多く、本作もその一つと言えるでしょう。

展覧会
情報

特別公開

弥千代の雑と婚礼調度

2月5日
3月8日

テーマ展

民楽湖東焼の彩り

— 絵付師自然齋 —

4月15日
5月17日

企画展

琵琶湖文化館所蔵の名品

— 彦根ゆかりの書画とやきもの —

5月20日
6月21日

展示案内 3月～6月

”ほんもの”との出会い

彦根藩井伊家伝来の
大名道具を中心に80点あまりを展示

● 常設展示 ●



能・狂言

彦根城表御殿の能舞台は、寛政12年(1800)に建てられた江戸時代の舞台です。この舞台を使って、毎年、狂言と能の公演を開催。平成28年度は、狂言2回(6月11月)、能1回(9月)の公演を予定しています。

● 水無月狂言の集い ●

平成28年度第1回目の狂言公演です。

■ 開催日時・場所

6月18日(土) 18時30分開演(18時開場)

当館能舞台

■ 演目

大蔵流狂言

【解説】 茂山 千三郎

「横座」 茂山 あきら ほか

「泣尼」 茂山 七五三 ほか

「首引」 茂山 茂 ほか

■ チケット

全席指定

A席(正面) 3千500円

B席(脇正面) 3千円

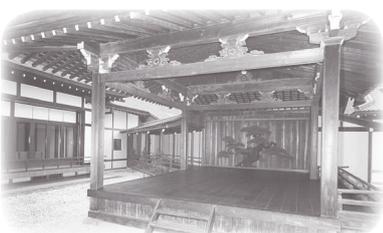
5月18日(水) 発売開始

* 開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますので、ご了承ください。

* チケットは、当館受付およびお電話にてお求めいただけます。

(発売初日は館内販売9時)、電話予約は10時)

* 未就学児の方はご入場いただけません。



テーマ展 展示室1

3/11(金)～4/12(火)

近江ゆかりの工匠

― 刀工・鐺師・鉄砲鍛冶 ―

近江の地では古くから刀や鉄砲の工人が活躍してきました。その中には、鐺に躍動かつ立体的な彫出を施した藻柄子宗典のような、全国的に名を知られた名工もいます。

本展では、館藏品の中から、近江にゆかりのある工匠が制作した刀や鐺、鉄砲などの武具を、江戸時代の作品を中心に紹介します。それぞれの工匠たちの巧みな技はもちろん、初公開の作品にもご注目ください。



武者合戦図鐺
銘 藻柄子喜多河
入道宗典製

刀 銘 下総大塚藤原兼正

◎ギャラリートーク◎

■ 日時 3月12日(土)

11時～14時

■ 講師 古幡昇子(当館学芸員)

テーマ展 展示室1

4/15(金)～5/17(火)

民窯湖東焼の彩り

― 絵付師自然齋 ―

湖東焼は、江戸時代後期に彦根の民間で始められたやきものです。その窯は後に彦根藩の藩窯となり、数々の優品が生み出されました。

自然齋は、中山道烏居本宿で旅籠を営むかたわら、藩窯の白素地を仕入れて上絵付を行った人物で、民窯湖東焼を代表する絵付師です。本展では、自然齋の作品を一挙に公開し、闊達な筆運びや鮮やかな色遣いによつて生み出された表現の魅力をご紹介します。



色絵花弁図蓋置
(個人蔵)



赤絵金彩唐人物図
四方形火鉢
(河本英典氏寄贈)

◎ギャラリートーク◎

■ 日時 4月16日(土)

11時～14時

■ 講師 奥田晶子(当館学芸員)

企画展 展示室1

5/20(金)～6/21(火)

琵琶湖文化館 所蔵の名品

― 彦根ゆかりの書画とやきもの ―

滋賀県立琵琶湖文化館は、県内公立博物館のさきがけとして半世紀以上の歴史を有し、近江の文化財の宝庫として知られています。

本展では、その所蔵品から、彦根出身の書家として名高い日下部鳴鶴の書跡や、同じく彦根出身の絵師張月樵の絵画、彦根で制作された湖東焼など、彦根ゆかりの名品を紹介します。



長春孔雀図 張月樵筆(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

◎ギャラリートーク◎

■ 日時 5月21日(土)

11時～14時

■ 講師 奥田晶子(当館学芸員)

金亀玉鶴



文人好みの湖東焼

― 染付六角植木鉢 ―

湖東焼は、江戸時代後期に彦根で焼かれたやきものです。彦根城下の商人絹屋半兵衛が開窯し、後に彦根藩が召し上げ、井伊家十二代直亮と十三代直弼、十四代直憲の代に藩窯として運営され、多くの優品が生産されました。

湖東焼は、染付や色絵、青磁などの様々な技法で制作され、その材質や技法が極めて多様な点に大きな特徴があります。また、注文主の好みの反映と考えられるような凝った表現の作品も、しばしば見出されます。個人所蔵の植木鉢（写真）もそのような作品の一つです。



湖東焼染付六角植木鉢
および落款部分
(個人蔵)

この作品は、白磁に染付の技法で絵付を施した六角形の植木鉢です。湖東焼であることを示す銘はありませんが、底や内部のほかに赤く発色した胎土の様子や、白磁

の青味を帯びた色合い、技巧的な形態や鮮やかな呉須の色味などから、藩窯期の湖東焼と判断されます。実は、当館が所蔵する井伊家伝来品(関東大震災罹災品)の中に、同一のデザインの植木鉢があることから、これらは共に井伊家の注文を受け、同意匠で複数制作されたものの一部である可能性が考えられます。また、湖東焼研究の基礎文献である『湖東焼の研究』(北村寿四郎著、一九二五年)にも、湖東焼の作例として同じ意匠の植木鉢が紹介されており、記述通りの作品が良好な保存状態で現存していることは、貴重なことと言えます。

さて、この植木鉢の胴の各面には、山、水、花鳥図が交互に描かれており、各々に署名と印が入っています。署名は、「文晁」、「甫田」、「南湖」、「閑林」、「雲峰」、「東□」(東カ)と表わされており、「東□」については不明ですが、その他は、江戸時代の絵師として知られる谷文晁(一七六三〜一八四二)と山崎董烈(？〜一八三七)、春木南湖(一七五九〜一八三九)、岡田閑林(一七七五〜一八四九)、大岡雲峰(一七六五〜一八四八)を示していると推定されます。この五人中三人の在世時期が、藩窯湖東焼の制作が始まる天保十三年(一八四二)以前であることから、この植木鉢の絵付に彼らが直接関与したのではなく、彼らの絵を模して制作されたと判断されます。

ここで注目すべきは、彼らがいわゆる中国の文人に倣った画法を得意とした絵師であり、この絵付においても、北宋時代の文人画家米芾が創案した米点法などが駆使され、本格的な文人画となっている点です。そして、谷文晁とその門人(雲峰・南湖・閑林)が多く選ばれている点も注目されます。

文晁というと、十二代直亮がその弟子の佐竹永海を召し抱えて重用したことが知られており、直亮が、永海を通じてこれらの絵師の図様を入手した可能性も考えられます。本作が井伊家の注文品であるならば、その注文主は、直亮である可能性が高いと考えられるのです。本作は前述したように、藩窯期の作であると判断されますが、一方で、白磁の色合いは青味が強く、製法の拙さを感じさせる形態の歪みが見られます。このような作風は、藩窯期の比較的早い時期、すなわち、直亮の頃の作品であることを示しており、彼の注文品と考えるもう一つの根拠となります。

これまでの研究成果により、直弼が注文し制作させた湖東焼については、現存作品や自筆の指示書などから、その具体像が明らかになっています。しかし、直亮好みの湖東焼がどのようなものであったかの詳細は分かかっていません。本作は、直亮の関与を伺わせるといふ点において、示唆に富む貴重な作品と言えます。

(奥田晶子)

講座・講演会

● 講演会 ●

歴史の中の老中奉書

『彦根藩井伊家文書』保存修理の成果から長年にわたって進めてきた老中奉書の保存修理が、このたび完了しました。修理によって何が明らかとなったのか、その成果を紹介します。

■日時 3月19日(土) 14時〜15時40分
■内容 「井伊家伝来老中奉書の概要」

野田浩子(当館学芸員)

「澁坂法による老中奉書の修理」

刀谷公子氏(株式会社修美 技師)

「老中奉書から見えてくる幕藩関係」

三宅正浩氏(岡山大学大学院准教授)

■会場 当館講堂

■定員 50名

■資料代 200円

■申込 当日受付(先着順)

● 彦根城博物館出張講座

「あなたの街の歴史探訪」●

当館学芸員が、彦根市内の各公民館地区の特徴的な歴史上のテーマを取り上げ、わかりやすく紹介します。

■日時・会場

第1回 5月7日(土) 高宮地域文化センター

第2回 5月28日(土) 中地区公民館

第3回 6月16日(木) 河瀬地区公民館

第4回 7月2日(土) 鳥居本地区公民館

第5回 7月16日(土) 西地区公民館

*各回とも、10時〜11時30分

※論題・講師等の詳細な情報は、追ってホームページ・広報ひこね等でお知らせします。

■資料代 各回100円

■申込 当日受付(先着順)

スケジュール 3月～6月

6月	5月	4月	3月
<p>25土 千変万化 美しき水の意匠</p> <p>18土 龍。鯉。言 水無月狂言の集い</p> <p>16木 あなたの街の歴史探訪 (河瀬地区公民館)</p> <p>11土 鎌倉 古文書のみかた②</p>	<p>28土 あなたの街の歴史探訪 (中地区公民館)</p> <p>21土 琵琶湖文化館所蔵の名品 彦根ゆかりの書画とやきもの</p> <p>14土 鎌倉 古文書のみかた①</p> <p>7土 あなたの街の歴史探訪 (高宮地域文化センター)</p>	<p>16土 民楽湖東焼の彩り 絵付師自然齋</p>	<p>19土 歴史の中の老中奉書 『彦根藩井伊家文書』 保存修理の成果から</p> <p>12土 近江ゆかりの工匠 刀工・鑄師・鉄砲鍛冶</p>
<p>テーマ展 千変万化 美しき水の意匠 6/24～7/26</p>	<p>企画展 琵琶湖文化館所蔵の名品 彦根ゆかりの書画とやきもの 5/20～6/21</p>	<p>テーマ展 民楽湖東焼の彩り 絵付師自然齋 4/15～5/17</p>	<p>テーマ展 近江ゆかりの工匠 刀工・鑄師・鉄砲鍛冶 3/11～4/12</p>
<p>特別公開 弥千代の雛と婚礼調度 3/8</p>			
<p>常設展示 “ほんもの” との出会い</p>			
<p>6/21-23 展示替により一部休室</p>	<p>5/18-19 展示替により一部休室</p>	<p>4/12-14 展示替により一部休室</p>	<p>3/9-10 展示替により一部休室</p>

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

募集

●平成28年度支援スタッフ募集●

当館では、事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。

■活動内容

①教育普及事業

小学生対象体験講座の運営スタッフ

(体験メニューの準備、指導補助)

②調査研究事業

古文書解説ボランティア

(彦根藩井伊家文書等の古文書解説)

*当館開催教室「古文書のみかた」を終了された方、または同程度の読解力を有する方が対象です。登録希望の方は、事前

に学芸史料課古文書解説ボランティア担当へお問い合わせください。

■申込期間

3月18日(金)まで

■申込方法

当館「支援スタッフ」係まで、お電話にてご応募ください。(8時30分～17時)

*4月以降に開催する研修へ参加いただきます(日付未定)。

*①、②の事業を兼ねて登録いただくことも可能です。

●「古文書のみかた」受講生募集●

古文書解説を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■開講日時

5月14日、6月11日、7月9日、8月6日、8月27日、9月17日、10月15日、11月12日、14時～16時(全8回、いずれも土曜日)

■場所 当館講堂

■定員

60名(応募者が定員を超えた場合は抽選)

■資料代 500円

■申込方法

往復はがき(1人につき1枚)の往信に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。

■申込期間

3月31日(木)まで

*当日消印有効

*抽選の場合、4月11日(月)以降に結果を通知します。

●友の会 会員募集●

「友の会」に入会して、歴史・文化との出会いを楽しみませんか。

■会員特典

①会員証で彦根城博物館の常設展ほか、展覧会が観覧できます。

②友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。

③友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。

■会員期間 平成29年3月31日まで

■年会費

一般会員 2千円(高校生は1千円)

ジュニア会員(小・中学生) 5百円

賛助会員 1口以上(1口…1万円)

■入会方法

当館受付にある申込書をご利用ください。(郵送可能・要問い合わせ)

■問い合わせ先

彦根城博物館友の会事務局(中野)

*友の会専用電話0749-4715787

*毎週水曜日9時～17時在館



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100

FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。